日本女醫会誌
復刊第39号

万国博医療サービスへの準備状況について

会長　三神美和

連日の猛暑にも係らず会員の皆様には、社会のため、人類のためにご活躍の御事と心からおよろこび申し上げます。

さて、あの豪華を極めた五月の総会からはや八〇日が過ぎました。今更ながら月日の流れの早いのに驚くとともにうかうかしてはいられない気持になってまいりました。

そこでその後の万国博医療サービスの準備状況と社団法人の件などについてご報告申し上げたいと思います。人的配置と資金面からみて万国博医療への役務提供はなかなかむづかしい仕事であることを今更ながら痛感しております。

ボランティア精神で参加することをモットーとして会員の皆様にもご了解を得、厚生省にもその方針で万国博医療予算を提出してありますが、それでも最低八五〇万は必要とします。ルーペンダンによる純益も皆様の絶大なご協力で徐々に上昇してまいりますし、ご寄付総額も次第に増えてはまいりますが、それでも六月末日現在資金は四〇〇万に達したのみです。前途多難の感をひしひしと感じます。

先日東京都の万博委員会を致しましたところ、多数のご出席を得、皆様熱心にご討議して下さいました。資金面においては未寄付の会員へのご寄付の要請、各区ごと会員以外の方々（メーカーなど）からの寄付一区ごと五万円の獲得が快よく承認されました。人的配置についても活潑なご助言をいただきました。多人数の力を結集しなければ、到底この大事業は達成できないと思います。何卒全国の会員の皆様よろしくご協力をお願い致します。

次に地方から医療サービスに来られる方々のための宿舎について頭を悩ましし、過日鈴木万国博事務総長にお目にかかった際、このことについてのご配慮をお願いしましたところ、ご快諾下されし、万国博事務局へご指示下さいました。その結果万国博に従事する人のため公団がつくるマンションの貸与を受けることになりました。3DK家賃一戸当り三、八〇〇円のもの三戸を借りうけることにしました。一戸に最低七人は宿泊できますので、各地区ごと、各クラスごとに一日二〇人来られても、余裕があると思いますのでご安心下さい。

次に役務提供の人員が配置についてお知らせ申し上げます。すでに今年初めに個人別にご都合のつく月日についてアンケートをお願いしました。個人別アンケートで大体千人の割当が出来ましたが、支部によっては支部としてまとまった期間、役務提供をしたいとのお申し込みもありましたので、先日の理事会で討議の結果、一週間一単位として地区別又は支部別、又はクラス別、友人別に受持っていただくことに決定致しました。即ちこれは一週間一単位を地区別又はクラス別等に受持ち責任をもっていただく。それには延べ42名を必要としますが、その地区で一週間出られる方とか或は三日出られる方とか色々組合せていただいてとにかくこの一単位を受持っていただくということであります。更にできれば一単位ごと責任者をきめて頂くとよいと思っております。すでにこの点について各支部長宛にアンケートをお願いしましたところ、各地から次々とお申し込み下さいました。クラス会として受持っていただくことも大変よろこばれ、すでにお申し込みをいただいたクラスもあります。このように全国の皆様のご協力によって次々と廿六週が埋められて参りますがどうしても埋まらないところは地元の会員にお願いして、日本女医会としての責任を果したいと思いますので何卒よろしくお願い申し上げます。

今回の万国博医療サービスは会員の皆様の貴重なお時間を割いての役務提供でありますので、その価値たるや到底普通の物資や金銭では測り得ないものと思います。尊いボランチア精神を旗印に押し立てて国家的大事業に奉仕する日本女医会の真摯な態度に万国博関係者を初め医療関係者もひとしく目を見張って感歎しております。しかし資金さえあれば、適当な報酬をもってこのご苦労にお応えしたいのは人情です。その意味でできるだけ多くの資金を得たいと努力しておりますがその精神だけはあくまでもボランチアであることを忘れてはならないと思います。

社団法人はそこまできていて手の届かない苟立たしさがあります。東京都の登記はすんだのですが厚生省の係りが配転となり、まだ申請書類は総務課にあるようです。これが通過し内閣官房室に行き厚生大臣の許可が出れば万事OKですが目下議会が大詰に来ていますのでこちらには、手がまわらないようです。そこで参議院議員山本杉先生にお願いして促進していただいております。議会でも終了したらすらすら行くと思っております。社団法人となった時は大口寄付をいただくために免税手続をとりたいと考えております。これがないと大口寄付は無理かと思われますので是非そうしたいと思います。

その意味で一日も早くと法人組織の許可を希っております。万国博まで余すところ二二七日です。寄付は万国博の期中受付けますが人員配置は今年一ぱいで準備を終了したいと思います。今後も次々といろいろご協力をお願いすると思いますが、これも人類の調和のため、平和への貢献と思召してよろしくお願い申し上げます。

万国博役務提供ならび資金報告

昭和四十四年七月三十一日現在

一、役務提供申し込み一覧表

次頁の表参照。

役務提供される会員の方には万国博協会から会場内を自由に見学できる通行券が発行されます。これには身分証明書にかわる写真が貼られ協会より発行されます。開催期が近づきましたら規定大の写真を本部にお送り願うことになります。

なほ家族の方や同伴者の方は本会の宿舎（3DK）をご利用になれますし、入場券は一枚一日の見学券を本部で用意してありますのでお金を同封の上お早目にお申し込み下さい。

一枚　六三〇円（定価　八〇〇円）

万国博役務提供申込一覧表　開始期日（45. 3.15～45. 9.13）（44. 7.31 現在）

	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31
3月															日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火
															中条先生 大正12年クラス会							東京女子医大 学内支部									
4月	1	2	3	4	5	9	7	8	0	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	
	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	
	東京都(足立区)							東京都（港区）							東京都（目黒区）																
5月	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31
	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日
										東京都（練馬区 台東区）						千葉県							三神先生 大正13年クラス会						
6月	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	
	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	
								高知県 中野区							広島県																
7月	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31
	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金
8月	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31
	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月
																	東京都(大田区)														
9月	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	
	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日																		
								愛知県																							

二、万国博資金報告

（昭和四十四年七月三十一日現在）

合計　四、七六二、九三一円

内訳
- ○寄付金　二、七八一、六八二円
- ○ルーペンダン一、九〇六、七五四円
- ○その他　七四、四九五円

或る友人

理事　木原シズ子

北陸本線の高岡駅から城端（ジョウハナ）線に乗りかえて約一時間、そこに落ち付いた小さな町がある。ここ福光町は小矢部（オヤベガワ）川の上流が町の中央を西から東へと流れ、そして富山湾へ注いでいる。昔、日本海から富山湾へ入る貿易船はこの辺りまで上って来た由。川べりには現在も古い料亭が有って、その名残りを止めている。時期になると澄んだ川底に鮎が寄ってくる。大小の丸味がかった石の周りで鮎を追い乍ら水を楽しむ子供達の姿は、北陸の短い夏を惜しむ童等にとって大きな喜びであるのだ。

又朱に塗られた橋上から遠く東に仰ぐ立山の雄峯は得も言えず美くしい。

昔、大伴家持は、

立山に降り置ける雪の常夏に
消ずてわたるは神ながらとぞ
（万葉集）

と歌い、又、川田順は、

立山が後立山に影うつす
夕日の時の大きしづかさ

と感歎した。四月頃、雪が溶けてきて平地の路上に斑らながら土の色がうかがえるようになると、間も無く緑の小さな萌を発見する。その時の何とも言えぬ喜びは、雪国の生活を経験した者のみの知る歓喜であろう。然し十月の終り頃から向寒の兆が雲に現われはじめるときの淋しさも亦、都会では味わい難く、きびしいものがある。

44. 7.31　現在

支部名	会員数	寄付金	ルーペンダン販売数
		口	個
千代田	21	52	22
中央	11	9	10
港	36	12	50
新宿	51	64	5
学内	92	314	177
文京	21	40	
台東	21	30	30
品川	31	37	40
目黒	45	42	77
大田	88	169	60
世田谷	80	76	
渋谷	27	40	
中野	55	61	66
杉並	82	73	38
豊島	46	32	
板橋	28	1	10
練馬	45	26	43
北	31	13	
足立	32	29	50
墨田	16	36	25
荒川	15	0	20
江東	27	36	10
葛飾	25	62	20
江戸川	13	20	18
都下	90	244	74
小計	1,029	1,518	845

支部名	会員数	寄付金	ルーペンダス販売数
		口	個
北海道	100	58	25
青森	45	16	65
秋田	27	23	48
岩手	24	8	50
宮城	68	76	22
福島	54	52	67
群馬	58	79	65
埼玉	86	172	36
栃木	48	83	64
茨城	61	93	
千葉	82	73	50
神奈川	154	157	20
山梨	35	44	55
静岡	82	128	158
山形	21	28	10
愛知	212	364	388
長野	44	32	
岐阜	43	38	68
新潟	35	78	5
富山	44	30	20
石川	35	2	16
福井	28	20	
大阪 1	24	18	
〃 2	26	12	35
〃 3	31	46	13
〃 4	42	6	
〃 5	33	4	
〃 6	39	12	20
〃 7	19	52	20

支部名	会員数	寄付金	ルーペンダン販売数
		口	個
大阪 8	20	3	
〃 9	43	37	
〃 10	57	60	
京都	28	37	54
滋賀	23	1	14
三重	34	18	
奈良	51	42	
和歌山	35	47	
兵庫	193	65	
岡山	62	111	120
広島	114	75	
鳥取	13	2	26
島根	27	26	5
山口	51	68	50
香川	55	2	
愛媛	28	5	58
徳島	44	18	
高知	51	38	232
福岡	69	24	
佐賀	27	4	
長崎	33	42	17
熊本	42	28	16
大分	23	4	44
宮崎	17	3	20
鹿児島	38	6	
その他		500	311
小計	2,778	3.070	2,287
総計	3,870	4,588	3,132

この川の上流に位する太見山の、その奥地に、刀利、臼中、小又などという寒村がある。現在は麓の近くまでジープなどでも行けるが約三十年前は全く現代から隔絶された部落であった。夏の炭焼きと木樵りが村人達の一年中の仕事で、雪が積もりはじめると四、五月までは、全く交通が跡絶えてしまう。したがってこのような辺鄙なところの生活は、昔ながらのささやかな営みで、すべての文明から全く取り残されていた。こういう所へは山峡の途を登り下りしながら三〇kmも四〇kmも歩かねばならないので、日々多忙な開業医の実態では、たとえ往診したくとも、他の多勢の患者を犠牲にすることができないので、普通の医者なら往診できないのが当然でもある。それゆえに村人達は医者に診てもらう事など凡そ無縁のものと考え、病気になったら命は天運に委せておくと言う習慣になっていたらしい。況してや妊産婦の健康診断など思いもよらない事であった。

昭和十四年、この福光町に開業した未だ三〇歳に満たぬ健康な女医が居た。彼女は、医は仁術なりをモットーに診察をするので忽ちのうちに患者が激増していった。

ある時、この山の部落から急病人のために往診を求められた。昼の間に150名余りも診療をしているため、漸く夕方になって迎えの者等と共に山へ出かけることができた。山の麓まではさ程でも無かったが、山の中へ入ると暗さは暗し、路らしい路も無く想像以上の困難さで、それこそ目的地へ着くまでの辛さを覚悟せねばならなかった。漸くの事で目的地へ辿り着いた時は夜半を遙かに過ぎていた。彼女がいかに健脚とは言えこの強行軍は今にもくずれ折れそうな疲動感を覚えさせたが、ふと家の中を見ると、家人達は土間に居並び、恰も神仏を拝するかの如く合掌して迎えていた。三拝九拝する人々の眼は涙で濡れていた。この時彼女は感激のあまり疲動感など一気に消え去ったと言う。またこの時ほど医者になった事を幸と思い、生き甲斐を感じたことは無かったと言う。東の空が白くなる頃まで病人の傍にまどろみ、泌々と医人であることを神に謝しつつ、再び町へ帰って来るのであったが、帰宅すると既に多くの患者が待っていて直ちに診察室へ入るのであった。山の人々は、その後「医者様が来て下さる」と山彦の様におらび合った。

雪の深い路の歩行は、一度経験した者にしか理解できない困難さと危険を伴うものである。山の登り下り、谷川にかけられた丸太橋、足がかりの無い山の小途、これらは雨あとでも危いが雪が積もってしまうと殆ど一歩も進めないものである。平地でさえ、雪路はお能の踊りのような足どりで一歩一歩ふみしめながら進むのである。しかし彼女は山から人が降りて来たのだから……と言って往診を引き受ける。或る時などは帰宅して話していた。「今日は丁度水中ならば立泳ぎのように手で各自雪をかき分け、かき分けしながら足を動かして行った、深いところは肩まで雪が積もっていたから……」と。実に非凡な人間である。

山の部落にも次第に明かるい息吹きが招来されて、重病人の他に妊産婦も受診するようになった。山からは雪溶けを待って荷馬車を用意し集団で診察にくるようになった。その中にはとても返せない者も居る。動かせない患者は病室へ収容し、徹夜で治療し自ら看取った。然し何本注射したか数えず、勿論請求する気も無い。「お金なんか無い人達だから」と言う。又「徹夜することは自分が無能だから」とも言う。これ以上の良心が人間に有り得ようか。山からは年に一回、これ等の謝意が届く。それは炭、薪、山の野菜など許りである。それを受けて彼女は言う。「一日がかりでまあ良うこそ」と、喜びながら。

それ故、これ等の部落は毎年の祭りを先生の都合のよい日に決めるようになり、今でも先ず御伺いを立てにくるのである。

今ではもう道も出来、雪のない時はスクーターでも、或る所までは行けるし、山の下までは車も通るようになった場所が有る。町には無いが、自衛隊のヘリコプターを時には利用して薬をとどけたりする事も出来る。しかしまだまだ、この山間僻地は交通開発には程遠い。だが今や六〇歳に垂んとし、頭髪は銀色に、又若い頃の肥満した堂々たる体躯は、長い間の過労のためにかげも無く痩せてしまったが、やはり頼まれれば往診すると言う。村人達は「松井先生に診てもらって死ねば本望」と言う。

彼女とは過日、日本女医会から女医会事業の一端として、僻地診療の助成金一〇万円也を贈られた松井寿美子先生である。この助成金も、二分の一を富山県の不幸な子達のために寄付し、二分の一はルーペンダンを買って知人達に与えたとの事である。

松井さんはこのようにして医人として仁に徹しつつも、数年前まで13年間を町の議員として活躍した人である。その間の先生は常に最高点で当選し、富山県女性ナンバー・ワンの名を挙げたほど議員としての仕事の手腕もあった。反面、女性らしく、客を招待する時は食膳の皿まで気を配り、或は手踊りの陽気さも見せ、又自ら抹茶のお手前なども忘れなかった。書画であれ、陶磁器であれ、多趣味な造詣を持っている人でもある。議員を辞めてからは、一つ母子寮の長としての仕事を続け、優れた運営をなし、その子等のためには物心共に自らの援助を厭わない。

まだまだその善行は限りがない。彼女は只終始一貫、愛の心、仁の精神、且つ禅の誠心を持っていた。そして他に衒わず、黙して誇らず。而してこれ等が既に数年前、町或は厚生省からの表彰となり、テレビ五〇分間の、「生活の記録」、全国放送となったのであろう。

全国にはこのように立派な先生方がまだまだ多いことと思う。僻地と言えば、やはり級友の内出みちい女史（石川県）を知っている。滅死医療に徒事しておられる尊敬すべき多くの先生方の為に、衷心より神のご加護を祈念して止まない。

× × × × × ×

東京で時また雪が降ると、私も福光町から約六km山辺へ入った西野尻村での六年間を思い出すのである。深雪に無経験の私は一人で往診中、片足をすべらしてしまったことがある。その時、どうしても雪の中から上がる事が出来なかった。何故なら、雪が高く積もる時は、人の歩いた足の幅だけは稍固まっているが、その両側は軟いので腰までも雪に入ってしまうと手がかりが無く、助けがこなければ却々上がれないのである。雪中に腰まで入ったまま茫然と蛎波平野の広い雪原を見つめて居ると、ここ一年間の数々の悲しいこと等思い出されて、誰も通らぬを幸い、思い切り泣いたりしたこともあった。……

ふと気を取り直して何とか起き上がらねばと鞄をふみ台の如くし乍らふと仰いだ立山の、まぶしい許りに素晴しかったこと。

降りやみて
静けき越の雪原に遙けく
立山夕映ゆる見き

今思い出して詠んでみた。

一九六九―七―一五

◇　◇　◇

山形県、福島県支部を訪れて

副会長　小俣喜久子

大都会の騒音の中で忙しく働いていると、無性に自然の美しさが恋しくなることがある。ちょうどそんな時、福島より六月八日に支部会を開催するとの本部宛出席依頼のお手紙があり、それならこの際山形県にも寄って支部の結成をお願いしてくるようにと三神会長の命もあってあっさりお引受けしてしまった。早速山形県白鷹町にお住いの私の同級の横沢寿美先生を煩わし、なるべく多数の先生方にお集りいただくよう依頼しておいた。六月七日早朝上野発の特急に乗込み窓外に移りゆく新緑の景色を眺めながら仕事からの解放感にやれやれと思う間もなく、内心山形県の先生方が集って下さるか、支部結成を快く承知して下さるかなど考えるといささか心が落ちつかなくなってきた。山形駅では午後三時の開会には大分時間もあったが、出迎えて下さった横沢先生のご案内で早速会場である山形銀行の会議室に直行する。

まだ誰もおられない会場で岸先生が会場づくりをしていらっしたが、山形県の地形は交通の便が悪く特にこの度は突然の招集なので都合のつかない先生が多いとのお話であった。山形女医会員は五十余名おられるそうであるが定刻にはそれでも十二人の先生がお集りになり、中には、数時間もかかっていらした先生も数人おられたようである。落ちついた和やかな雰囲気の中で若い先生などは日本医師会があるのに何故に日本女医会が必要なのか、又何をするのか……などのご質問があったが、我々女医でなければ出来ない仕事や或は長い人生の中で女医であるが故の不都合が万一あった場合などにおいて、この日本女医会ならではということがあると思うし今度は社団法人日本女医会として益々有意義な仕事もしなければならない。これにつき具体的な話にも及んでついに出席者全員の賛成を得て山形県支部を結成、支部長には岸先生が満場一致で推され、これから日本女医会のため大いにご協力下さることになった。

さて翌八日は白鷹町の横沢先生宅より福島県の支部会開催地である郡山市に行く。私と同クラスの勿来の関の横山貞先生が大変熱心に会員の方々に呼びかけて下さった。会場であるグリルセーキは定刻には二十四名の先生がお集りになり、特に箱崎支部長は、お体のご不自由なところをご出席になり支部長としてご挨拶の後、改めてお体の都合もあり老齢の故をもって辞任致したい旨をお話になった。しかし会員一同は先生のご留任を再々願われたが箱崎先生の辞意は固く、ついに会員もやむを得ず新会長に菊地先生を推し今後の日本女医会のためご甚力いただくことをお約束して下さった。なお横山先生が副支部長として菊地先生を補佐して下さることになった。両県の新支部長が就任されたことは日本女医会発展のためまことにご同慶の至りである。

私もようやく責任をはたし帰京したが自然の美とともに人の心の美しさに接し久し振りに晴々とした思いであった。

日本女医会福島県支部総会　S. 44. 6. 8

○万博グラフ購読ご希望の方へ！

昭和四十四年七月より昭和四十五年九月まで十五ケ月分購読料三千円をそえて本部へお申込み下さい。

○万博入場券ご希望の方へ！

一枚六百三十円（定価八百円）代金をそえて本部へお申込み下さい。

万博寄付申込者

（昭和四十四年七月三十一日現在）

総計（四、七六二、九三一円）

（敬称略　順不同）

木下貞子　加藤正子　吉原キクヨ　大川環姫　高山たかを　仲田佐禧子　島津つる　坂根ミツセ　吉田登美子　栗田敦子　鎌田宣子　朝田和　小田幸子　相沢英東　南里子栄　横沢寿美　今野英子　近藤トシ　中沢於君　佐藤タミ　市川長子　海老原ふみ江　角田智恵子　松山京子　芳賀元子　福島県支部　川野辺静　瀬路子　梅津隆子　柳斎寿賀子　工藤はるえ　中村和子　古橋久子　安井一女　篭香代子　岸清子　磯島美和子　横井敦子　加藤晶子　大河内継子　藤林芳枝　高木千代子　原田時子　横瀬美年子　西川文子　原田トシ子　村上大子　亀島芳江　岡安秀子　加藤篤子　佐藤和子　稲葉はま　古川恵美子　中村和代　富田秡子　真砂綾子　河村和子　牧田和子　箭頭イウ子　浅井和子　猪野利　青山光子　新潟県支部　岡山県支部　浜田道子　大森安恵　清正子　串田つゆ香　大田豊　浅利英　植竹純子　小村清美　佐藤佑子

須田キヨ子　甕君代　吉田幸子　桑江ときは　徳永恵美子　唐沢寿　毛利泰子　高田勝美　降矢愛　今井三喜　長田富香　中村恵美子　吉田美喜子　矢野文子　中山丈　大河原久子　嘉納雅子　葉晴　久保島和子　山中妙子　小暮美津子　諏訪美鳥　橋口明枝　黄長華　河野さがみ　坂本孝子　窪斐子　岡美貫子　第一建築サービスKK　佐々木ハナ　畑孝二郎　石山良子　作田静子　稲葉頼子　桜庭しげ　豊田智里　柿木ヒデ　瀬木和子　小林玲子　渡辺佳子　相川登起子　倉島摂子　伊藤恵子　中島ふさ　大津重子　及川貞　高野澄子　岡正子　南雲君代　土井淑江　宮崎よし　岸直枝　高間美さ保　本トキ　松野芳子

○会費十カ年前納者

宮崎雅枝　高田キミ子　松家雪枝　大橋歌子　野村多賀子　藤原幸子　平形京子　落合ハナコ　政川ゆき　博田博　岸千鶴子　三輪輝子　横山貞　山崎敏子

昭和四十四年八月十日印刷
昭和四十四年八月二十五日発行
編集人　森千鶴
発行人　日本女医会
発行所　東京都新宿区市ケ谷河田町19
日本女医会
印刷所　東京都港区白金五-四-一
興栄美術印刷株式会社

題字　吉岡弥生